

## 第5回新花巻図書館整備特別委員会における、質疑応答要旨

令和2年11月12日（木）午後1時30分から午後3時22分まで開催された市議会新花巻図書館整備特別委員会における質疑応答において、市が行った発言を、委員からの質問要旨とともに、次の通りお知らせいたします。

### （○上田東一 市長）

特別委員会を開催いただきまして誠にありがとうございます。また、私がこのように出席させていただいて、お話をする機会を与えていただいたことについては、大変感謝申し上げますと思います。前にお話し申し上げましたけれども、これについてですね、やはり議員の方々と我々とでざっくばらんに話しして、今後のあるべき姿について話しするというのは必要だというお話をさせていただきました。各党派の方々にお願い申し上げた次第でございますけれども、そのようなざっくばらんな会という形は、今のところ出来てないわけでございますけれども、それにしても、実際にお話しすることは大変重要だと思っています。これがお終いになることではなくて、今後についても必要に応じて話し合っていくという機会を設けさせていただくということについては、我々からもお願い申し上げたいと思っております。

6日に市川部長が小委員会に出席させていただきまして、ワークショップの動きについて御報告をさせていただきました。小委員会のメンバーの方以外は、その市川部長からの話は聞かれてないわけでございますけれども、ちょっと遅れましたけれども、この小委員会において市川部長がお話し申し上げたことについては、ホームページに掲載させていただきました。我々としては、そのような市が説明申し上げたことを、議員の皆様と市民の方々に見ていただいて、今後の色んな意見交換について参考にさせていただきたい。それをベースにして、それぞれの方々の意見や御質問をいただきたいと考えている次第であります。今回は、市川部長の説明は繰り返さないで、直ちに質疑応答に入るというように理解しておりますけれども、そのような形で、意義のある話をさせていただきたいと思う次第であります。よろしく願いいたします。

### （○委員）

花巻駅前の建設手法としては、1月29日に提案したまちづくり会社や特定目的会社SPCを前提として建設をすることを考えているのか。また、駅前の駐車場の場所も同様の手法で考えているのか。

### （○市川清志 生涯学習部長）

先ほどお話のありました賃貸住宅等を含めます複合施設、SPC等を用いてというような手法につきましては、以前もお話ししておりましたが、図書館ワークショップでのアンケート等を見ますと、住宅の複合化について賛成するという意見はなかったところでありまして、それらも踏まえまして、見直しについても検討する必要があるというふうに考えているところでございます。また、もう1か所というのは、駐車場の場所ということでしょうか。

駐車場の場所に複合化というのはないのですが、図書館をつくるというような、候補地として考えた場合は、お示しはいたしました。現在駐車場として60台駐車できるスペースがあるのですが、そこに建てた場合に、その駐車場が使えなくなるということがありますので、そこは市民の皆様方の同意を得なければいけないとは思いますが、仮に1階を駐車場にして、2階、3階を図書館にするような形ですと、全体として4階建てくらいでないと出来ないというふうにご検討されているのですけれども、駐車台数は30台くらいしか出来ないだろうというのは、この間の御説明した資料の中に記しているところがございますので、そのようなことにと考えております。

#### (○上田東一 市長)

今、市川部長が申し上げたとおりであります。賃貸住宅につきましては、1月29日の段階でも、絶対というようなことではなくて、本当にその部分については必要なれば止めるという話はしていたところであります。その後かもしれませんが、議員の方にはそういう話をしています。これについては、前からお話し申し上げましたけれども、花巻市のいわゆる中心市街地、駅の東側ですね、これについてはなかなか地価が高いということもあるのだと思いますけれども、新たな住宅を建設するという民間の動きはない。その中で花巻市がつくった被災者公営住宅、これ一戸をですね、子育て世帯に、この前条例を変えさせていただいて、募集をかけました。やはり反応は非常に良いですね。あるいは子育て世帯向け地域優良賃貸住宅についても希望者が殺到したということでありまして、東口については人口が少ないという状況が続いていますけれども、やり方によっては人が住むということがあるので、そのことを考えて、この駅前の非常に希少な土地についての有効活用ということで考えたわけでありまして、しかし、これについては、我々としても拘るものではないということはずっと言い続けたわけでありまして、今回のワークショップにおいて、アンケートを採りましたけれども、これ公表しています。住宅が良いという意見は無かったわけでありまして、これは多分、市全体ですね、市民全体の声の大多数だろうというふうに我々判断しますから、これについてはこれ以上進めるつもりはございません。そういたしますと、その部分について、複合化といっても相当限定的なものになるということになります。我々、議会でここ数年言い続けていますけれども、青森市のアウガの話をしてですね、今どき駅前にショッピングセンターをつくって、お客さんと呼んでくるという構想はうまくいかない。花巻市においても同じように考えていて、そのようなことをするつもりはありませんという話を何度かお話をしています。その気持ちは変わっていないわけでありまして、つくってそれが損して、市がやらないにしても、その事業がうまくいかないということの危険性はありますから、余り無理をしたくないということでもありますので、そういう意味では、複合化といっても相当限定的なものになるだろうと。例えば、今回のワークショップでも、カフェ、あるいは飲食できるスペースが欲しいという声、非常に特に若い方の中から多いわけでありまして、そういうものについては我々もやっていきたいと思っておりますけれども、それ以外のものについて拘るものではないということですから、これ以上検討するつもりはないということでもあります。あと駐車場につきまして、今部長が申し上げたとおりです。花巻の駅前については、市民の声としまして、駅前駐車場が今でも少ないという声は、大変多いのです

ね。その中で駐車場を潰すというのは、私は逆行するだろうと思います。仮にほかのところに大きな立体駐車場つくっても、立体駐車場、1階を例えば高齢者とか障がい者とか子育て世帯の方々に優先的なものに作れば、別に余り不便ではない、むしろ雪が入らなくて良いのだということありますけれども、2階とか3階とか4階も使わなくてはいけないということになると、不便になるという声がやはりあります。そういうことからすると、駅前において、あるいはその建設費もかかるわけです。そういうことからすると、駅前において今ある駐車場を潰すということは我々としては望ましくないと思っております、しかしながら、その部分についてはですね、一応、案として出したわけでありまして、この部分について、市民の声を聞いていまして、余り駐車場を潰してという声がないように私も感じておりますけれども、私は余り望ましくないというように思っている次第であります。以上です。

#### (○委員)

建設手法は、オガールのような公民連携の手法をとるのか、オーソドックスな形の図書館を考えているのか。

#### (○上田東一 市長)

オガールさんをお願いする理由、これは前にお話し申し上げましたけれども、我々は出来ないということなのです。要するに、例えば賃貸住宅をつくることについても、賃貸住宅どういうものをつくるかとか、それについてお金をどうするかとかいうことは、市はなかなか出来ないということなんです。ですから、そのノウハウをいただきたいという話をしたわけです。お金、例えば、例え話をして申し訳ないですけど、プロジェクトファイナンスという言い方しましたけれど、プロジェクトファイナンスなんてなかなか市民の方には伝わらないわけです。ノンリコースローンなんて言い方がありますが伝わりません。もう少し簡単な言い方をすると、お金持ちの息子が事業を始める。そのときは銀行からお金を借りなくてはいけないということなんです。そのときに、銀行は、今までは土地を担保で取るとか、あるいはお金持ちのお父さんから保証を取るとかということでお金を貸したわけです。我々が考えていたのは、そうじゃなくて、土地の値段なんて大したことない。担保になりません。数億円借金することについて1億円ぐらいの土地であれば担保にならない。あとお父さんである市は保証したくないということ。そうすると銀行はどう見るかということ、その事業が儲かる事業かどうかということ、あるいは、お父さんは保証したくないかもしれないけど、最初にどれだけお金を出すかを見るわけですね。我々考えたのはそういうことなんです。そうすると、市が最初にお金出さなくてはいけないだろう。だけど市だけじゃ嫌だな。政府系の機構からお金出してもらおうという、そういう話もあった。どれだけ出すと言ったら良いか、そしてどれだけ出したら銀行はお金を貸してくれるか、事業がどれだけ儲かるかということについて銀行はどういうふうに見るか。そういう交渉は、これは我々では出来ない。私も企業にいましたけれど、そういう経験はない。そういう部分について、やはり知っている人に助言をいただかないと出来ませんよということだったんですね。先ほど申し上げました、そういう賃貸住宅をつくることは考えていないということですね。そうすると、その部分について、そういうことの実験のある方の助言は必要なくなります。したがって、

我々はオガールの岡崎さんにそういう部分について助言を求めるということについて、今考えはありません。岡崎さんには大変迷惑をかけた。岡崎さんに対する個人的な攻撃もあったように聞いていますけれども、そういうことも含めて、岡崎さんには大変迷惑をかけたということについては陳謝申し上げたと。我々としては、今現在はそういう形でS P C設立云々ということは考えていませんということはお話し申し上げたということでもあります。以上です。

#### (○委員)

まなび学園周辺に設置する場合、道路の工事を図書館とセットにして考えるべきなのか、それとも、後で工事をすることを考えているのか。

#### (○市川清志 生涯学習部長)

これまで御説明してきたのは、まなび学園、あるいは営林署跡地、総合花巻病院跡地の場所ですと、幸橋といいますか、南側の道路、城内大通り1丁目線、これの西側の方に歩道がない地区、道路がありまして、これはやはり大変だということを申し上げておりました。都市計画道路として、城内大通り線というのが計画ではありましたが、これをつくるのはやはり橋梁とか交差点の関係で、かなり困難だというふうに考えているという中で、今の城内大通り1丁目線の幸橋を通っている道路に歩道を付けるような工事をして対応できれば良いというふうに考えていまして、全く別というわけではなくて、やはり図書館をつくるに当たって、周りの環境というのを、そこまでのアクセスというのも当然考慮してやらなければいけないという観点から、一緒に説明してきたものというふうに考えています。

#### (○上田東一 市長)

まなび学園ですね、候補地になっています。何か所かありますけれども、この場所につくる場合に、やはり利用者の安全を確保できるかどうかというのは大きな問題だと思うんです。我々として考えたときに、あそこ歩道なくて本当に大丈夫なのかなと物凄く心配です。これについては、小委員会でも何度かその話をしましたけども、小委員会のほうでは、これは図書館と関係ないんだということで、その議論を余りしないでくださいという話があって、余り御説明出来なかったんですね。ただどさっき申し上げたように、私は非常に市民の安全を守るためには大事な観点だと思います。したがって、10月15日だったですかね、市のほうで議員説明会をさせていただきました。そのときに話したのは、候補地について詳しい説明させていただいたのと、それから道路の話なんです。候補地についても、実は市のほうでは非常に詳しい資料作ったんですね。これ6月ぐらいだったですかね。そのときも、時間がないから余り説明しないでくれということで、9か10用意したうちの代表的なものだけしか説明出来なかったわけです。我々としてみた場合に、やはり議会小委員会とか、特別委員会だと時間の制限もあるので、十分説明出来ないなと感じたわけですね。そういうことで我々は、議員の皆様にごつくばらんに、10時間かけても良いし、何日かかけても良いから、お互いに話し合いましょうと提案させていただいたわけですね。ただこれは、議員の中でもいろんな御意見あったというふうに伺っていますけれども、そういうごつくば

らんな会というのはなかなか開けない状況になって、今に至ったわけです。そういう中で、我々としては、やはり特別委員会あるいは小委員会の中であれば、我々が非常に重要と考える部分について十分説明出来ない可能性があるということを考えて、議員説明会を開催させていただいて、この新しい候補地について、さらに出たもの、病院の解体の状況も出てきていますから、そういうものを十分説明させていただいて、プラスやはり道路というのは、市民の安全を守るために大事だという説明をさせていただいたということになります。これについては結果的に良かったなと我々思っています。やはりワークショップでもそういう議論出ていますよね。大事なポイントだと思うんです。我々が今考えている道路なんですけれども、実はさつき部長が申し上げたように都市計画道路は昔からあったんですよ。それは実現化しなかったんですけれども、実は遠藤部長の前の部長、国土交通省の専門家で、やはり遠藤部長と同じくらい優秀な道路の専門家です。この人が、平成29年に赴任して、平成30年にかけて、物凄く一生懸命検討したんですね。その結果、都市計画道路をつくと、何か斜面がすごくついて、角度がついて、雪がついたとき危ないとか、あの道路の北側の方々が何か変な動き方をしないと駅前通りに出れないとかですね、そういう形にならざるを得ないという報告を出してきたんですね。だから、今現在我々としては、都市計画道路は出来ないということ、そうするとどうなるかということなんですけれども、まず都市計画の変更をしなくてはいけない。これは専門家に言わせると2年くらいかかる。しかも、周辺の方々が賛成すれば良いんですけれども、反対する方がいると、なかなかこれはその実現に時間がかかる。あるいは、出来なくなる可能性があるということもあります。そして、これも前に議会に申し上げたと思いますけれども、あの道路のもっと花巻小学校寄りの道路の拡幅については、地権者の方々の反対の声もある。したがって、数年以内にその方々の同意を得て、そこまで含めて広げて、しっかりした歩道をつかって、車道をつかって行くというのは多分無理だと。そうすると、我々としては、さはさりながら、駅前に図書館をつくれないう場合には、やはり、まなび学園周辺を考えざるを得ないからどうするかということなんですけれども、今の考え方としては、今の幸橋は使いながら歩道をつくらうということを考えざるを得ないというふうに我々思っていますけれども、ただこれについては、専門家の遠藤部長とか、建設部の意見聞くと、普通に考えて8年ぐらいかかりますということなんです。そうすると図書館が出来た段階では、しっかりした歩道が実は出来ていないんですよということなんです。そこも含めて、やはり市民の皆さんに、この情報をやりながら、その結果がどうなるか。だからそれが有利とか不利とかそういう話じゃないんですよ。事実は事実として伝えた上で、市民の方に判断していただかなくてはいけない。雪がないときに自転車で歩道のないところを通って行くようなことで、これは現実的には、私はやりたくないですけれども、それも含めてやった上で、しばらく、数年間になるかもしれないですけど、我慢しながら歩道のない状況で、図書館をつくらざるを得ないということについて、それでもそのほうが良いということであれば、そういうことも考えなくてはいけないというのが我々の考えであります。以上です。

#### (○委員)

賃貸住宅の複合化は考えていないこと、SPC特定目的会社設立も考えていないことか

ら、公民連携は無くなったと思うが、スポーツ用品店のところに建てる構想の理由の一つとして、駅前活性化に資するということがあったが、それでは駅前に建てなくても良かったのではないかと。

#### (○上田東一 市長)

我々として考えたときに、これは市民の意見を聴くと言っています。したがって、我々のほうとして、絶対駅前に拘るわけではないわけです。しかし、これ正直に言いまして、聞く人によってやはり違うんですね、回答については。今の図書館の問題点が何なのかということなんです。図書館自体が非常に規模が小さい。魅力的じゃないということが大きな理由の一つですけれども、もう一つはやはり行きにくいということなんです。そうすると、利用者の方は、実は60代、70代の方が圧倒的に多いんですね。アンケートの結果ですから、アンケートに答えない場合には結果は出ませんが。あとはお子さん連れのお母さん方が来ている方が多い。ほとんどは自家用車で来ている。あるいはその中高生であれば、その近所に住む人が来ているという状況なんです。私も66歳ですから、さっきの60代、70代の中に入ります。けど図書館というのは、60代、70代の方にとって非常に重要なんですけれども、やはりそれだけじゃないだろうと思うんですね。やはり若い人たちに使ってもらいたいという、そういう図書館をつくる必要があるんじゃないかと。高校生で発言ありました。私も直接聞いていますけれども、花巻魅力ないって言うんですね。そういう中で、そういう図書館に行って、色々な活動をしたいと、本を読んだり交流したいと、そこでも勉強したいという、そういう声があります。年齢の上の方によっては、私直接聞いていますけれども、高校生というのは3年間だけだ、自分たちは十何年使うんだから自分たちの方を大事にすべきだと、実際に私の目の前でおっしゃった方がいます。でも、それはそうではないと思うんですね。中高生大事だと思う。そういう人たちが、花巻はやはり過ごしやすいなと思って、一旦出るかもしれないけれど、やはり花巻に戻ってきたいという魅力の一つをつくる必要がある。そういう点からいったら、やはりそういう人たちが来やすい場所に図書館というのは、私は必要なんではないかなというふうに思っています。アンケートのとり方によって結論違いますから、全てじゃありません。聞き方によって全然違うんですね。例えば皆さんのように、駅前とまなび学園という聞き方をすると、それだけ出てきますし、もう少しまなび学園とか、こういうところでこういう構想になりますよと説明するとまた答えが違って来る可能性がある。ですから、我々としては、そういう意味で、いろんな層の意見聞いて、花巻に必要な図書館というのを考えていく必要があるだろうと思っています。そういう意味で、色々な人が集まりやすいということを考えたら、車のない人を考えたらやはり駅前を考えたほうが良いんじゃないかと。実際に今回のワークショップでも、公表はしていませんけれども、駅前を希望した人は、若い人が多いです。まなび学園を希望した方は、やはり70代くらいの方が多くいます。おかしいじゃないかというのは簡単ですけれども、実際にそういう声が出ていることも事実なんです。そういう観点から考えると、私は、各層の、しかも自動車のない、自分が自動車あるから要らないということじゃなくて、自動車を使えない人についても、どこが行きやすいのかということは、やはり我々としては考えていく必要があると思っています。そういう意味で、その部分は、駅前に置いて、図書館という

ことを考えた場合に、やはりまだ我々としては進めたいなという気持ちは正直あります。さっき申しあげましたけれども、これは若い層と、我々のような高齢者の方の意見を多数決で採って、決める話じゃありませんから、十分話をしていく必要があるというふうに我々は考えております。できるだけコンセンサスをとって、そこで場所を決めていきたいというのは我々の考えであります。以上です。

#### (○委員)

駅前の方が良い、進めたい気持ちがあるという話だが、スポーツ店の場所はJR用地なので、想定している定期賃貸借するのか、それともJRから購入しようとするのか、どういう考えか。

#### (○上田東一 市長)

それについてはですね。我々は当初、買いたかったんですよ。別に、買うのと借りるの进行比较して借りる方に決めたということと言ったわけじゃないんです。買う方が我々としては良いと思っていました。だから、買うほうが良いじゃないかというのは、これは我々も同じですから、議員の方々も言っていることと同じなんです。だから買いたいですよ。ただ、これ相手のあることですから、我々が買いたいと言ったって売ってくれなければ、これどうしようもないわけですね。そこで比較するのは、だから買うのが良いのか、借りるのが良いのかではないと思うんですね。要するに、借りてまで、ここにつくったほうが良いのか、借りるくらいだったら、まなび学園のほうが良いのか。そういう話だと思う。我々としては、借りることについて数字が独り歩きしていますけれども、あの数字は、向こうが言った話で、向こうもそれに拘っているわけじゃないんですね。あくまで、評価額をベースにして、あとはJRの社内規則があるらしいです、一定の利益率を掛けていって、そこで計算した金額にしたいという話なんですよ。だから、最初からあの金額になると決まっているという話ではなくて、これは交渉の余地があるということは、これも何度も何度も申しあげて。これ不思議なんですけどね、議員の方々信じないんですよ。市のほうで説明したけど、そうじゃなくてももう決まっているに違いないと。正直、申しますけど、特別委員会も小委員会も議事録公表されていません。我々、途中で申し出ましたよね、公表したほうが良いと。申し出ているんです。だけど、公表されていないんですけれども、だから我々市の職員が傍聴した報告を受けていますから、どこまで正確に皆さんの発言を聞いているかは分かりませんが、どうも、市のほうで言ったこと、そう言ったけど実は違うことを考えているんじゃないかというふうなことがあるということなんですけども、我々言っていることについては、実は我々裏表ないというふうに我々は思っています。思っていること、それだけを言っているんですね。で、仮に金額出ましたけれど、それはまだまだ交渉の余地があるということなんです。交渉の余地があるので、例えば、そうすると我々は評価額をベースにして交渉するのだから、JRに対して評価額をとってくださいと言っているんですけれども、とってくれなかったんですね、なかなか。花巻市が実際に借りるかどうかわからない部分について、そういうことは出来ませんというのは、これは申しあげています。議員の皆さんに申しあげていますけれども、それはJRの立場で言ってきているんですね。だから幾らくらいで借り

られるかって分かりません。もう一つありますのは、貸した場合に、固定資産税を市がとれるんですよ。これはですね、100万円までは行きません。金額は言えないんです。100万円まではいきませんが、50万円よりは多い金額が固定資産税で入ります。したがって、賃料の部分が全て市の負担になるわけではないということがあります。ただ、さはさりながら、賃料は持ち出しだからないほうが良いじゃないか。そのとおりだと思います。だけどこれについても、定期賃貸借50年たったら返さなくてはいけないんじゃないかとか、色々あります。これも条件交渉なんですね。この条件交渉をまだしてない状況であります。しかしながら、やはり借りるより、買ったほうが良い。そのとおりなんです。我々としては、そう思っていますけれども、そこが話は出来ていない。その上での話になりますけれども、仮に500万円、600万円の賃料払ったとして、年間ですね。この図書館というのは、今の花巻市の図書館7500万円くらいですかね、花巻図書館の使っているお金。これはざくっとした金額しかありません。URは確か1億2500万円くらいだっけ。1億5000万円くらいですか。早川先生と相談して、今、生涯学習部でざくっと言っているのは、書籍の購入費とか、あるいは図書館司書を充実させるとかということを考えていくと、年間1億5000万円くらいかかるんじゃないかという話なんです。良い図書館をつくることについて、仮に500万円、600万円賃料が余計にかかって、それって大きな話なのかなということなんです。それも皆さんに考えてほしいということなんです。大変残念ながら、賃料の金額は今では申し上げられませんが、1億5000万円払って、必ずしも皆さん使い勝手の良くないところに図書館つくるのが良いのか。1億5600万円と言いましょ。1億5600万円払って、もう少し使い勝手の良い図書館をつくったほうが良いのか、これはみんなで考えましょうということが我々の考え方です。ですから買ったほうが良いのは良いんですけど、さはさりながら、賃料であれば絶対駄目というのは、そうかなというのは正直な話ですね。50年たったら追い出されるとなったら、追い出されないような契約の条件にして。我々、言っています。JRとの賃貸の話については、さっき申し上げました。JRは、花巻市と交渉しても、そこに建つんですか、建つという方向性が見当たらなければ交渉出来ませんよと言っていますから、そういう交渉出来ていないです。だけど、それが出来るようになった場合には、その分について交渉して、その上でそっちが良いのか、別のほうが良いのかということを考える余地はあるんだろうと思っています。我々としては、今、JRに対して、土地を売ってくれる可能性はないか、もう1回言ってます。これについては、JRも協議には応じてくれるというふうな方向にはなっています。ただ、これはですね、JRの場合には大企業です。盛岡支社が話に乗ってくれても、本社で駄目となる可能性はあります。今回の土地の利用についても、1年以上をかけて話してきましたけれど、やはり本社になると、いろんな条件がきます。ですから簡単な話ではないんですけれども、簡単な話じゃなくて、見通しがはっきり今こうなりますということと言えないから、諦めちゃうのが良いのかどうか。それはそうじゃなくて、むしろ我々はどういう図書館が必要で、そこを考えてから、場所についてもこういう場所が良いんじゃないかということ、我々として考えるべきじゃないかなと思っているわけです。皆さんの特別委員会、小委員会の議論の中で、市が場所について市民に説明していないじゃないかという、大変苦労してるよというふうな御発言があったというふうに私は報告を受けています。このようなことで苦労かけた

ということについては、大変申し訳ないと思っておりますけれども、ただ、状況見てください。何でそうなったかなんですね。我々1月の段階で、1月ではなく3月だったですかね。いつだったですかね、3月の段階だったかもしれません。市民参画手続、これはガイドラインに基づくのは、素案が出来てからの計画の話なんですよね。その前に我々としては、やはり市民の意見を聞くという、そういう観点から、シンポジウムを開くとか、あるいはワークショップをやるとかということは申し上げていました。だけど、このコロナ禍のもとにおいて、シンポジウムを開くような情勢じゃなかったんですね。ですから、我々は6月くらいまで何も出来ない状況だった。そのあとに何をやったかということですが、場所の問題をまず話をするんじゃないで、どういう図書館が良いのか、平成29年の構想をベースにして説明をしましたが、どういう図書館が良いのかということですが、まずワークショップで話をしてもらったんです。その上で、最後の段階で、場所について、こういう観点がありますよという、そういう資料を渡して、もう少し前に渡せば良かったんですけども、間に合わなかったのがざりざりになりました。事前に郵送した上で話をさせていただきましたけれども、郵送した時期が遅くなったということについては、我々としても大変残念だと思っておりますが、その上で、ざっくりと場所についての議論をしていただいたと。そしてアンケートを採ったということになります。さっき申し上げたように、特に若い人たちについては、便利な場所という声が多かったと思っておりますけれども、この問題は、ワークショップの方だけで決めるんじゃないで、今後話して決めていく必要がある。そういう上で、我々としてはなかなか難しいですけど、年齢層によって違いがあるというものを進めるというのは難しいんですけども、そこをやる努力をしていきたい。それについて時間かかってもしようがないというふうに我々は考えてるということでもあります。以上です。

(○委員)

ワークショップについて、JR用地が11人、駐車場も3人くらいの方が良いということで、駅前周辺が良いという方が多かったようだが、JRの土地の場合は50年間借りるとか、賃料もある程度かかるとか説明をした上でのアンケートか。

(○市川清志 生涯学習部長)

はい。JRの土地につきましては、1月29日の議員の皆様にお示しした資料と全く同じものをお示しして、50年間借りる土地ですよというのを、その場でもお話ししておりますし、その前のワークショップでも、場所をですね、候補地をお話しした際にも若干は触れておりますので、その5回目のときはですね、きちんとその資料で50年間借りることになりますということはお話ししております。

(○委員)

工事費は、議会でも答弁しているが、場所が変わった場合にどう変化があるのか。駅前の予定している部分と、まなび学園に建てた場合の国庫補助金の違いが出てくるのかどうか。

(○遠藤雅司 建設部長)

お答えいたします。結論から申し上げますと、どちらでも都市機能誘導区域の中にあります図書館ということであれば、国庫補助金の額は、同じ価格であれば変わりありません。ただ、今まで再三御説明いたしましたけれども、駅前例えば自由通路があって、図書館があるというようなパターンで、あそこの駅前帯を賑わいのために整備したいという話は、国土交通省のほうにも説明していきまして、かなり好感を頂いていることは従前から説明したとおりです。それを、例えば、まなび学園のほうに離れた場合に、同じように御理解を頂けるかというのは、まだ話していませんので、それは分からないですから、場合によって、それは認められないとか、順番をつけられた場合になくなるという可能性はあり得るということです。

#### (○上田東一 市長)

制度について、議員の皆さんも説明しましたが、今年の4月に変わったんですね。3月までは、例えば、自由通路をつくる場合には、図書館と連携した場合でないと、国の補助金は制度上出る可能性がないということだったんです。今は4月から変わりました。図書館と駅の橋上化は連携しなくても、駅の橋上化だけでも、補助金は出る可能性があるという制度に変わったということでもあります。ただ、要するに、これはコンパクトアンドネットワークの考え方で、中心市街地の活性化に役立つものについて国が補助金を出すという話ですから、国から見た場合、そういうふうな国の政策目的に合うほうが、方向が出易いことは間違いないと思います。そういう意味で、駅前の図書館と組合せたほうが、JRの橋上化についての補助金が出る可能性が強いということは事実だと思います。図書館の補助金でありますけれども、これも御説明していると思いますけれども、最大が10億5000万円です。可能性の問題です。図書館について、10億5000万円。駅の橋上化はそういう制限はありませんから、今建設部のほうで計画している中では15億円くらい国からの補助金を得るということを考えているということでもあります。先ほど部長から、国交省には、駅前の場合しか話していませんという話をしましたけれども、実は、3週間前、2週間前だったですかね、私の日程の中に入っていますけれども、都市政策何とかという市長の会があるんですよ。大体10人くらい出るんですけれども、そこで都市計画局長、途中でお帰りになりましたけれども、あるいは都市計画課の有力な課長はほとんど全員出席して話しています。その中で花巻市は、図書館の計画を都市機能誘導区域に計画していますと、場所については、駅前か、あるいはまなび学園か、今両方検討していますという話をしています。簡単な話ですけどね。頷いておられましたけれども、花巻市は意外と評価高いんですよ。街中活性化の施策については、そういうことで頷いておられましたから、可能性はあると私は思っています。まなび学園についてもですね。ただ、間違いなく駅のほうがずっと通るのは間違いありませんし、正直言って、我々が働きかけても、うまくいかないんだったら、多分我々が悪いんじゃないかと、その計画自体が評価されないと。我々信頼を受けているというふうに自負していますから、我々が悪いんじゃないかと、その計画自体が評価されないという結果になるだろうと思います。ただ、だれどいずれにしても、まなび学園で建設すべきだということがコンセンサスが出来た場合には、我々としてはそれをベースにして、国交省に対して働きかけたいと思っていますけれども、もう一度繰り返しますけれども、そこでうまくいかなかったら、我々

が悪いんじゃないということですね、ちょっと申し上げたいなというふうに思います。以上です。

#### (○委員)

県の合同庁舎の移転も考えながら、生涯学園都市会館も含めて、文教施設などのゾーンにしていく考えのもとで、計画が示される必要もあるのではないかと。道路整備の想定は分かるが、図書館が有る無しに関わらず本来は生活道路として整備していかなければならない。まなび学園を利用する場合においても徒歩で歩いて来ている方もあるかもしれないし、花巻小学校がある。道路は切離して例えば一方通行にするなどもできると思うがどうか。

#### (○上田東一 市長)

合同庁舎も耐震化していますよね。県が、今の合同庁舎を壊して、新たにつくる計画があるということは、私どもは寡聞にして聞いていません。実際に、もし可能性があるとする、多分花巻と北上とを合わせた合同庁舎ということなると思います。したがって、建て直してくださいという話をした場合に花巻に残るといふふうに考えるのは、極めてそれは楽観的過ぎるといふことだと思います。県の財政は、私が言うのも何なんですけれども、大変厳しいんですよ。花巻市と余り基金の額が変わらないんですよ。岩手県の基金。少しは多いですけどね。これはなくなるという予想になっている、数年後には。今どういう状況になっているかという、例えば花巻市もそうです、市道をつくる場合に、社会資本整備総合交付金を使って、国からもらって使ってやっているんですよ。岩手県の場合はどうなっているかといいますと、昨日、一昨日、財務省に行って私も話してきました。主計官と45分くらい話してきました、10分の予定が、45分くらい。向こうも色々聞いてくださったので45分くらい話しましたが、岩手県はですね、例えば、国の直轄事業は90%復興交付金なんです。県の整備しているものも、80%復興交付金なんです。そうすると社総交が来ているのは20%だけなんです。来年からは復興交付金出なくなりますから、これをどうするんだというの大きな課題なんです。これが来なくなると、3桁国道とか県道、主要地方道の整備が出来なくなるんですね。県の県土整備部長とも話していても、大変な危機感なんです。そういう状況のもとにおいて、まだ使える合同庁舎を壊して、新しいのをつくるというのは考えられないという状況だと思います。だから、理想を言うのは良いんですけども、現実的にはないということだと思います。したがって、もし、花巻市が、県の合同庁舎も含めてお金出してつくると言ったら乗って来るとも思いますけれども、壊して一緒につくろうとか、別のところにつくってくださいと言ったとしても、県としてはそれ出来ないという状況、少なくともここ数年の間に、そういう計画をつくるとは思えない。だから、図書館の建設を今計画を進めることを止めて、10年後にもう1回考えれば良いんだと言ったら、それはその段階で考えれば良いかもしれませんが、今の段階では、それは現実的ではないというふうに我々は見えていますし、それはそうでしょうということについては、市の内部では、皆さん同じ意見だと思います。それから道路については、整備する必要がありますよね、確かにね。我々としてはやりたいと思っています。ただ、小学校の通学路ということ考えたときですね、もっと危険なのは南城小学校なんです。南城小学校の歩道はほとん

どないですよ、学校の前。危ないんです。ほとんどの子供たちは、ほとんどじゃない、相当程度通っていますから。危ないですよ。そっちのほうがまず優先度は高いというふうに思っています。今現在は、あと山の神諏訪線の整備も進めていますしね、そんな簡単にすぐできる状況ではないと思っています。それで、あともう一つですね。歩道整備を進めても道路は良くならないんですよ。さっき申しあげました。今お住まいの方々が、買収には応じませんという話をしているんですね。そうすると、あそこを安全な道にしていくことについては、5年や6年の単位ではちょっと考えられない。我々としては、歩道の整備だけでも進めたいと思っていて、都市計画道路を変更することについては、余りお金かかりませんから、これは我々としては来年度からでも進めたいと思っています。ただそれは現実的に、さっきおっしゃったような図書館とは別に、小学校のお子さん方、あるいはまなび学園を使う方々にとって安全な道路になるのは相当時間がかかると。今の見通しでは花巻市の財政の問題を横に置いて考えても、財政をしっかりとお金かけてやったにしても、あと8年ほどになるというのは我々の見方でありまして、そういう中で、やはり、他の道路との優先度を考えながら、我々として進めていきたいと。あと、真ん中の地区の方については、お気持ちが変わることについては、場合によっては10年、20年かかるかもしれませんけれども、そういう長い単位で考えていく必要があるんだろうなというふうに思っています。以上です。

#### (○委員)

賃貸住宅はないということだが、例えばカフェとか飲食スペースについても必要と考えているとの話だが、研修室だとか、学習室だとか、展示スペースとかは考えているのか。1番危惧するのは、複合施設の中に商業施設のスペースが入ることを警戒しているが、そういうことはないのか。

#### (○上田東一 市長)

それは、さっきお話し申しあげましたけれども、商業施設をつくっていった場合に、そこはうまくいかなかったという場合のリスクというのは、やはり私は大きく考えるべきだと思っています。URの報告書に書いていますよね、ほぼ駄目だという話がありました。その上で、JRが一時的に自分たちが運営するからつくってくれという話があったんですよ。そのときにそれを検討してくださいというのは我々の回答だったんですけども、だけど、その中で、例えばJRがですね20年間賃料を払い続けると約束をするとかいうことがなければ、これは危なくて出来ないなというのが我々の判断です。実際にそういうふうな提案はしないだろうと思ったので、見ていたんですけども、最終的にはJR本体じゃなくて子会社にやっていただくということで子会社に相談したらいいんですけども、花巻駅前については魅力がないというのはその子会社の結論でありましたから、それはないということです。以前議会でも申しあげました、私は青森のアウガ、青森市長とは私は親しいのですけれども、アウガとかの話聞きます。そういうことがあるから余りうまくいかない。URの報告書もですね、まあ、企業の反応を調査した部分について大した報告じゃなかったんです。申し訳ないんですけどね。何社か聞いた中では反応もよくない。そしてJRについてもどうかと思ったけれど、やはり最終的に駄目だという話だったということですから、花巻市が

独自に商業施設を誘致してやってくるということは一切考えてないということでもあります。ですから、カフェについては、希望がありますから、それについてはやっていきたいというふうに思っています。ただもう一つですね、さっき、JRの土地を購入する可能性について我々は探っていますということを申し上げました。買う場合にはですね、土地収用法の手続をとる可能性があります、その場合には、余り商業施設をつくってはいけないらしいんですね。付属程度のカフェであれば多分大丈夫じゃないかという話がありますけれども、そういう観点から、もし購入するというになると、大々的な商業施設をつくとJRから買えなくなりますから、それは出来ない。あとワークショップでも、話ありましたよね。小さいホールをつくってほしいとかですね。色々な話がありました。これは、さっき申し上げましたけれども、国からの補助金が仮に出るとしても、10億5000万円が限界だって話。いろんなことをつくっていった場合に、これ全て花巻市の負担になるんですね。だから、図書館だけでも多分21億円くらいかかるんじゃないかというのは、今の我々の事務局の説明ですから、それにプラスしてつくるといって、仮に同じ10億円であっても、市の負担は全然違って来るんですよ。中期計画で市の財政計画を出しましたけども、あれ見ていただいても、あの中に図書館とか橋上化入っていませんよね。そういうのを入れていくと、そんなに合併特例債だって潤沢に余るわけじゃありません。したがって、その部分を簡単に、複合施設をつくるというのは結構難しいです。そういう中で我々が考えているのは、駅前であれば、なはんプラザを活用するというのをもう少し考えられるんじゃないかと思うんですね。例えば、あそこのホールを、これはまだこれからの話でありますから何とも言えません。余り変なことを言ってしまっただけですね、また、突然言ったと言われると困るんですけども、例えば大迫の活性化センターとか、東和コミュニティセンターに席ありますよね、引っ張ってくると結構気持ちの良い席なんです。例えばああいうことも考えながら、図書館利用者が、なはんプラザで色々な活動できるようなことをすれば、これは総合的に市の負担が少ない中で、使い勝手が良いようなことができる可能性があるんじゃないかということをお我々としては検討したいと思っています。これも含めて、今後は計画を出すときには、それも含めて、市民の皆さんには問いかけしていきたいというふうに考えています。

#### (○委員)

市の主要施設は市の用地になければならないと思う。もし、どうしてもスポーツ用品店の場所であれば、やはり土地の取得をお願いしたい。旧営林署跡地は西側に分厚い擁壁を建てる図面だが、そこを掘り下げてまなび学園の方から見れば、地下1階地上2階というような構造の建物にして造ってはどうか。比較的早く実現できるのではないかと思うがどうか。

#### (○上田東一 市長)

これも先ほど申し上げましたけれども、小委員会でそういう議論が出たということは報告を受けています。ただ、さっきも申し上げましたけれども、これ議事録が公表されていませんから、どれだけ私が正確に理解しているかは分かりません。ただその中で、遠藤部長、専門家ですけど、あそこを掘った場合には、表の擁壁は要らないわけではなく、裏の擁壁をつくる必要があるよという話をしたというふうに伺っています。もう一つはですね、私が如何

かなあとこのように思うのはあの場所であっても、やはり歩道の問題が出てくるんですよ。下から上ってくれば良いということですよ。例えば、ワークショップで子供たちというか高校生、ワークショップだったかな、花巻北高生だったか、声がありましたけれど、やはりあまり坂を上ったり下ったりするのは嫌だという声もあるんですよ。下から上ってくると、ちょっと坂上ることになります。もう一つはですね。あそこにつくる意味は何があるんだと思うんですよ。というのは、中高年の方々、我々と同じ世代の方々が、まなび学園が良いと言っているのは、駅前に比べて緑が多いということなんですね。あそこにつくって周りに緑ありますか。何の意味があるかということなんですよ。松の木はあります。だけど、体育館側は体育館を壊さない限り、あのままですよ。そうすると、緑は十分ないんですよ。そこに、まなび学園が良いと言っている方の理想的な緑の多い場所をつくるというのは、ちょっと難しいんじゃないかなと。そうすると、単に駅前より少し不便になって、駅前は、我々、芝生広場をつくるというふうに構想を出していますよね。そこでお茶を飲んだり、子供たちが遊べるようにしようということ。そこも出来ないような状況になるので、私はあんまり魅力ないんじゃないかなと思っています。ただ、委員の意見は、委員の意見でありますので、承ります。

#### (○委員)

擁壁は工事用の擁壁であって、それは埋め戻せば良いはずなので、大がかりなコンクリートの擁壁をつくる必要はないかと思う。緑があるかと言うが花巻は十分緑があるので、図書館の周りに緑がなければならぬかは余り問題ではないと思う。市民から、いつ出来るんだと言われる。よってその場所なら意外と早く出来るのではないかと思ったもの。

#### (○上田東一 市長)

工事のときにどれだけになるかどうかというのは、これはちょっと分かりませんが、コンクリートで擁壁を作らずに自然勾配の土手の壁を作るだけとすると（緩やかな斜面にする必要がありますから建物建設に利用できる面積は）自然とやはり狭くなりますよねというのは専門家の意見であります。ただ、そこは、私は専門的な部分がないので意見だけ承ったと思っていますけれども、もう一つは、図書館はまなび学園が良いという方たちの、大きな理由が緑を確保できるということだと、私は思っています。そういうことをおっしゃる方が多いと。これは確かに良い意見なんですよ。今回のワークショップでも、まなび学園の良い点として緑が多いと。ただそれができるかどうかは別ですよ。病院跡地だったらできるかもしれません。そこは大きな要素だと思っています。だから、委員がそれは関係ないんだというのは御意見として承りますけれども、市民の中にはそうじゃない意見の方もいらっしゃるって、そういう観点から我々は例えば駅前については、今のコンクリートの広場を芝生化するとか、あるいはワークショップでありましたよね。屋上庭園化したら良いんじゃないかと。これは私は良い意見だと思いますけれども、そういうことも検討の余地はあるなというふうに思っています。以上です。

#### (○委員)

J Rに対して土地の買取りの交渉を図っているというが、まなび学園という意見が一定層ある中で、買取りが決まってしまった場合は、どのように説明をするのか。市民の皆さんが、駅前が良いと言ってから、交渉を図るべきではないか。

(○上田東一 市長)

そういう交渉が出来ても、市民の方々が駅前を嫌だったらお終いになります。我々は、J Rと交渉することについて、こちらでそこに必ずつくりますと約束するわけじゃありませんから、ただJ Rのほうもそこをやるについては時間がかかりますから、今から様子を聞いて、J Rのほうの考え方を聞いていかないと、もし仮に、市民が、買うんだったら駅前でも良いよというふうになったときに、それからまた更に1年、2年かかってしまいますから、やっていかなくてはいけないんですね。借りるのでも良いというのだったら別ですけどね。役所に対する補助金の交渉もそうなんです。今日、花巻大曲線のトンネルの安全祈願祭がありました。議長さん頑張って、期成同盟会の会長として、何度も何度も東京に行っています。同じなんです。何度も何度も交渉して、そこで大体少しずつ様子が分かってくるということです。企業の交渉もそうじゃないですか、民間の我々もそうだったですけどね。やはり交渉というのはそう簡単に決まるものではない。ただそこは少しずつ様子を見ながら、相手の反応を聞き、その上でその条件だったらどうですかということを、市民にも問い合せていかなくてはならない。白か黒かじゃないんですよ。ですから、そういう形で交渉せざるを得ないと私は思っています。

(質疑応答 以上)